



特定非営利活動法人 海苔のふるさと会 会報

# 大森 海苔のふるさと館 ニュース 13号

## 「大森 海苔のふるさと館」設立の喜び

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

理事長 平林義正

### ■海苔場が消えた

丁場寄り合いから帰ってきた父親は、夕飯の折「あの子は偉いや、親孝行だ」と当時小学校六年生の私に、友達を何回も褒めるので「あれが、なんで偉いんだよ」とむきになって聞き返すと「あの子はな、学校上がらないで家の仕事をすると言いつ出したので、父さんがたいそうの喜びで、にこにこしていた」と言う。

このようにして、先祖代々、親から子へと受け継いできた海苔漁業の海に、東京オリンピックの高速道路を造るため、海苔場を都に提供せざるを得なくなつた。五年六か月、命を張って反対し続けてきた交渉は、埋め立て反対対策委員会と総代会の合同会議で都の提出した協定書を承諾することになり、昭和三十七年八月十一日の明け方午前四時に終符を打った。埋め立て反対交渉に当たってきた一同の慟哭(どうこく)が、一瞬、

### ★海苔の仕事のひとこま



会場の熱気を静寂に変えた。八月の太陽がため息と共に昇つたのである。三百年來、親から伝えられた職業を手放す最後の光景だった。その直後に大森海苔

漁業資材保存会が創設された。会長は朝学(大森の海苔漁業者の子どもたちは朝五時から二時間学校に通い、そのあと家業を手伝った)の校長横溝良三先生。そして、朝学担当の田口久雄先生とその教え子九名、白田由五郎先生を含む後援者五名など総勢十六名が集まった。

三十七年暮れより三年がかりで田口先生の指導のもと、漁具や失われよとする海苔資料を収集した。九名の朝学経験者は、田口先生への恩返しのように熱心に働いた。

### 集めた資

材は、大森第一小学校へ、その後茨田直蔵氏の乾燥場へ移され、さらに区に交渉して入新井にある教育委員会地下室へと転々とした。そして、郷土博物館ができたのでそこに移された。しかし、我々の道具が何故山のほうへ持ってゆかれるのか、海苔漁業者の不満は濃く、区を恨んだのである。

一方、昭和四十年より本場大森海苔の歴史を残しておこうと、六名の編集委員が二年がかりで都政資料館に通い資料を集め、計八年がかりで八百頁にのぼる



『大森漁業史』を完成させた。  
■海苔漁具が重文に

平成五年十一月、海苔漁具が重要文化財になるという報告会が、郷



★伝馬船で一休み 田口久雄氏撮影



入口で来館者をお迎えする海苔船

土博物館で開催された。高円宮ご夫妻ご臨席の許、西野区長はじめ関係者が集まった。西岡秀雄館長は「これから職員にピストルを持たせなければならぬ。八七九点の国宝をお預かりして一点でもなくなれば国宝でなくなる。外国では守るためにそうしている国が多い」と挨拶し、集めた私たちは喜びを禁じえなかったことが思い出される。十二月十三日官報に載せられ国指定重要民俗有形文化財に指定された。

■漁具が浜辺に帰る

平成十五年、お台場のガス会社



海苔簀編みのためのよし刈り作業

の跡に「ふるさと浜辺公園を造る会」が発足した。その一分科会が土木事務所を改造して海苔資料館を造る会として活動を始め、区長はじめ各方面に協力を要請し、先祖たちが使用した重要文化財を展示した「大森海苔のふるさと館」が平成二十年四月六日にオープンした。そして、一年後の二十一年六月十四日には早くも十万人の来館者を迎え、記念品贈呈を行った。

館に入ると、伝馬舟（てんません）を積んだ機械船があり、船上の祖父と孫のやりとりで海苔製造の過程をやさしく楽しく紹介している。一階に当時の海苔つけ場の再現・図書資

料室・海苔つけ作業室、二階は重要文化財の海苔漁具各種が展示され、江戸時代から伝わった浅草海苔の作り方が、誰にでもわかり興味を誘う展示室になっている。

竹ひび・木ひびを建てる「ふり棒」のセットがあり、海中で高下駄をはいて竹ひびを建てるため穴をあける雰囲気味わえて訪れた人を喜ばせている。多くの人々に訪れてもらい、「NPO法人 海苔のふるさと会」会員をはじめ漁具を使った先祖たちの喜びは一方ならぬものがあると思う。ご先祖様への御恩報じができた、土地っ子の人たちは大変感謝している。その気持ちを持って葦（よし）刈、葦干し、簀（す）編み仕事、網編み、竹ひび建て、網張り、海苔採り、海苔つけ、海苔乾し、海苔へがしと、一連の仕事を若い人々に伝承すべく館で指導を続けている。

浅草海苔発祥の地の製造法を後世へ。かつての海苔漁家の四季の生活ににじみ出た大森漁民独特の人情味とふるさと意識を後世へ。興産の念の尊さ、親から受け継がれる生業の重要さ大切さを後世へ。海にまつわるすべての文化と科学を次の世代へ受け渡すべく努力している。

※この文章は、「我が街 かわら版号外」(朝日新聞サービスアンカー編集・発行 平成二十一年七月二十日)に掲載したものを、再掲載させていただきました。

★印の写真は、大田区立郷土博物館の所蔵写真をお借りし、掲載いたしました。



区内小学校向けの海苔つけの体験学習

特定非営利活動法人 海苔のふるさと会会報

「大森 海苔のふるさと館ニュース」13号

平成22年3月1日発行

編集・発行 特定非営利活動法人 海苔のふるさと会

連絡先 東京都大田区平和の森公園2番2号

TEL 03-5471-0333 / FAX 03-5471-0347